一般社団法人
日本アカデミック・ディテーリング研究会

6

Newsletter 2026

2026 September

第９回日本アカデミック・ディテーラー養成プログラム
「薬の比較に基づく処方提案」の研修を行いました



日時　2026年9月6日（日）12:30～17:30
開催形式　Zoom
参加者　32名
（病院薬剤師　23名）
（薬局薬剤師　9名）

テーマ：２型糖尿病

プログラム

オーガナイザー：出雲　貴文
講義1「アカデミック・ディテーリング資材について」
小茂田 昌代
講義2「２型糖尿病のｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾃﾞｨﾃｰﾘﾝｸﾞ資材解説」
大沼 真季
SGD1「患者背景のチェックポイントと治療目標の検討」
SGD2「最適な継続薬の選択と医師への処方提案」
成果発表・総合討論

Pick up!　スモールグループディスカッション

SGD1：模擬症例に対し新たに処方された糖尿病薬について、CDMシートを用いて患者背景を確認し、ガイドラインや基礎薬学を活用して患者リスクを予測しました。
SGD2：治療目標を設定し、ディシジョンツリーを活用して最適な１剤を選択しました。患者の希望 （ 入院したくない、旅行に行きたい、サプリメントは続けたい ） や経済的負担も考慮しました。

課題症例

２型糖尿病の処方提案

基本情報：65歳　女性　仕事はデスクワーク
既往歴：高血圧、高脂血症、ラクナ梗塞
併用薬：低用量アスピリン、ランソプラゾール、ピタバスタチン、カンデサルタン
サプリメント：セントジョーンズワートを含む
２型糖尿病で今回リナグリプチンが処方された

研修会を終えて

参加者の皆さんが一つの症例に対して深く議論し、薬剤の有効性や安全性だけでなく、患者さんの希望や生活背景まで丁寧に考えている姿に、「なんて患者さんに寄り添って考えているのだろう」と感動しました。自分の将来のかかりつけ薬剤師になってほしい、と思うほどでした。今回の研修で得た気づきや考え方が、それぞれの日々の処方提案や患者さんとの関わりにつながっていくことを願っています。 SGDでは、資材を使いながら多様な視点で議論が深まっていく様子を拝見し、あらためて資材は使っていただいてこそ価値が生まれると感じました。今回いただいた反応や気づきを今後の改訂にも生かし、皆さんから寄せられるご意見を大切にしながらアップデートを重ね、より実践的で使いやすい資材へ育てていきたいと思います。

参加者の声

普段の業務では考えられていないことを模擬症例の中で学ぶことができた・SGDの中でエビデンスや患者に寄り添ったゴール設定を学んだ・多様な意見が集まり議論することでより理解が深まった・基礎薬学の視点はとても大切だと思う

次回研修会のお知らせ

お申込みはこちらから→

第10回 日本アカデミック・ディテーラー養成プログラム（web）
テーマ：2型糖尿病
日　時：11月8日（日）基礎薬学　　12月6日（日）論文吟味
1月17日（日）処方提案　　2月14日（日）ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ

https://jpacademic-detailing.com/